

「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の検討に係る官民連携チーム  
ワーキンググループ（第1回）議事要旨

日時：平成30年10月18日（木）14時10分～14時40分

場所：都庁第一本庁舎 7階中会議室

**【魅力あるまちづくりWG】**

- ・現在の臨海部への交通アクセスは脆弱で限定的なため、鉄道、道路に加え、舟運、徒歩、自転車等、多様化できるよう「行きやすい」環境を整えていくことが必要
- ・鉄道などの交通インフラ整備には時間がかかるため、完成までの間は別の交通インフラを活用できるようにするなど、時間軸を見据えて考えることが必要
- ・交通アクセスがネックではあるが、マイナス面をゼロにするのみでなく、プラスに変えられるようなことを考えたい
- ・臨海部は新しくつくられた土地であり、古くからの市街地に比べてドラスティックな変革を起こしやすい場所と考える
- ・道が広い、緑が豊富、敷地が広大、水辺が近いなど、ベイエリアならではの魅力を生かしたい
- ・広大なプロムナードや緑地があるが、現状うまく使えていないと感じており、更なる利用や活用を考えるのが良い
- ・外国のベイエリアの開発と違い、東京では物流機能と商業機能の両立を考える必要がある点が特徴
- ・物流機能の沖合拡張に伴い、旧物流エリアの機能をリニューアルする際には、まちの個性を生かしたゾーニングなどが必要
- ・羽田空港が24時間化した場合の人の流れや物流も考えていきたい
- ・BRTや環状二号線、将来の地下鉄等で都心域との結び付きが強くなり、サラリーマンが遊びに来る「ナイトライフ」も楽しめるまちになると良い
- ・BRTなどこれからのインフラ整備は、移動自体が魅力的になると面白い

## 【活力と躍動感のあるまちWG】

- ・ワーキンググループの名前のおり、突き抜けたアイデアを提案したい。課題解決型ではなく、先にアイデアを出すような手法も有効
- ・情報や空間など、「オープンなまち」をキーワードのひとつに考えたい
- ・活力と躍動感を生み出すため、民間が動きやすい仕組みやルールづくりなどを考えていきたい
- ・住居や商業施設など、地域ごとに用途が混在する中で、エリアの特徴づけもしつつ、イベントなどソフト面の繋がりも考えていきたい
- ・ベイエリアのうち埋立地は、昔から根付いた伝統文化などがあまりないため、新しいものを生み出していく必要がある
- ・活力と躍動感を生み出すために、重点的に取り組むエリアを位置付けるなど、エリアを特徴付ける視点も必要
- ・民間が新しいことに取り組む際のフィールドとして、ベイエリアであれば何でも試せる実験都市のような場とするのも面白い
- ・ビジターセンターとなるような、まちの歴史や計画を展示するエキシビジョンをつくりたい
- ・日本の伝統芸能と地域の人々を結び付けるなど、ベイエリアに関して感じたことを提案したい

## 【最先端技術のまちWG】

- ・行政がエリア限定での規制（環境、交通規制等）をかけることでテクノロジーが発展し、そのテクノロジーを見るために人が集まるといったエリアになると良い
- ・本来必要であるがコストが見合わないなど、現在世界で開発するモチベーションが無い技術が出てくるようなエリアになると良い
- ・ZEBの義務化やエネルギーの面的利用、臨海部の地域特性を生かした再生可能エネルギーの活用などにより、ゼロエミッションを実現するエリアになると良い
- ・翻訳デバイスを全員が使用し、言語が違う人同士がコミュニケーションをとれるような発想も面白い
- ・柱の無い照明など「目で見ることが出来る」新技術があると面白い

## <次回WGについて：各WG共通>

- ・次回に向けて、各メンバーが考えをまとめて事前に共有し、意見交換を行う